



日本映画大学のプロフェッショナル列伝、《アルテリッカしんゆり2019》とともに開幕!



日本映画大学シネマ列伝 VOL.6

カンヌ国際映画祭 パルムドール特集

恐怖の報酬 / ビリディアナ / 男と女 / 木靴の樹 / 檜山節考 / アンダーグラウンド

【会期】 4/20 [土] ▶ 4/26 [金] ※4/22休映

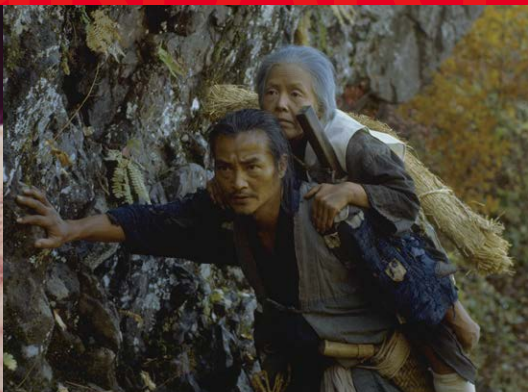
【会場】 川崎市アートセンター

各回入替制1000円均一 アルテリオシネマ会員800円・会員ポイント対象外
日本映画大学生は学生証提示で800円

Photos Lucienne Chevert ©1951 TF1 DROITS AUDIOVISUELS - PATHE RENN PRODUCTIONS - VERA FILM - MARCEAU CONCORDIA - GENERAL PRODUCTIONS / ©1991 Video Mercury Films / ©1966 Les Films 13 / ©1978 RAI-ITALNOLEGGIO CINEMATOGRAFICO - ISTITUTO LUCE Roma Italy / ©今村プロ・東映 / ©CIBY 2000 PANDORA FILMMOVIO FILM



『檜山節考』『うなぎ』カンヌ国際映画祭パルムドール (川崎市アートセンター寄託)



最新情報はWebで!! /
アルテリッカ
www.artericca-shinyuri.com



こちらをチェック!



めざせ! やさしさ日本代表!
かわさきパラムメント

主催:川崎・しんゆり芸術祭(アルテリッカしんゆり)2019実行委員会 共催:川崎市 川崎市教育委員会 後援:「音楽のまち・かわさき」推進協議会 NPO法人しんゆり・芸術のまちづくり

今年のシネマ列伝は、3月のイベント「カンヌ国際映画祭パルムドール展」に引き続き、昨年『万引き家族』の受賞とともに広く人口に膾炙するようになったカンヌ映画祭の最高賞「パルムドール」に焦点を当て、歴代の受賞作6本を上映します。いずれ劣らぬ名作揃い！うち2本については本学教員がトークをおこないます。

【お断り】カンヌ国際映画祭の最高賞は1954年までは「グランプリ」でした。「パルムドール（黄金の棕櫚）」の呼称は翌55年から63年まで用いられ、翌64年から74年まで再び「グランプリ」に戻りましたが、75年から「パルムドール」となって現在に至っています。今回はこの最高賞受賞作を「パルムドール特集」として上映します。

恐怖の報酬

〔 1953年受賞 〕

1953年/フランス/白黒/スタンダード/2h29/DCP



Photos Lucienne Chevert ©1951 TF1 DROITS AUDIOVISUELS - PATHE RENN PRODUCTIONS - VERA FILM - MARCEAU CONCORDIA - GENERAL PRODUCTIONS

監督・脚本：アンリ・ジョルジュ・クルーゾー／共同脚本：ジェローム・ジェロニミ／出演：イヴ・モンタン、シャルル・ヴァネル、ペーター・ヴァン・アイク

中南米のある国に吹き溜まった貧乏白人たちが、一獲千金のためニトログリセリン運搬を請け負う。クルーゾーがテクニクの限りを尽くしたサスペンス映画。

ビリディアナ

〔 1961年受賞 〕

1961年/メキシコ、スペイン/白黒/スタンダード/1h30/Blu-ray



©1991 Video Mercury Films

監督・脚本：ルイス・ブニュエル／共同脚本：フリオ・アレハンドロ／出演：シルヴィア・ビナル、フェルナンド・レイ、フランシスコ・ラバル

鬼オブニュエルが30年ぶりに故国スペインで撮った問題作。尼僧になるはずの若い女が伯父の邸宅で足止めされる。渾身の描写でスペインでは上映禁止となった。

男と女

※4/24(水)終映後、関川夏央特任教授トーク有 〔 1966年受賞 〕

1966年/フランス/カラー&白黒/ビスタ/1h44/DCP



©1966 Les Films 13

監督・脚本：クロード・ルルーシュ／共同脚本：ビエール・ユイッテルヘーベン／音楽：フランシス・レイ／出演：アヌーク・エーメ、ジャン＝ルイ・トランティニャン

同じ寄宿舎に子どもを預けている男女の大人の恋愛を綴る。クロード・ルルーシュの流麗な映像美と、フランシス・レイの甘美なメロディが溶け合う娯楽作。

木靴の樹

〔 1978年受賞 〕

1978年/イタリア/カラー/スタンダード/3h07/DCP



©1978 RAI-ITALNOLEGGIO CINEMATOGRAFICO - ISTITUTO LUCE Roma Italy

監督・脚本：エルマン・オルミ／出演：オマール・ブリニョリ、ルイジ・オルナーギ、フランチェスカ・モリッジ

19世紀末、北イタリアの貧しい農村。4世帯の小作農が寄り添うように暮らす長屋の四季折々の生活を、ドキュメンタリータッチで再現したリアリズム映画。

楢山節考

※4/26(金)終映後、天願大介学長トーク有 〔 1983年受賞 〕

1983年/日本/カラー/ビスタ/2h11/DCP



©今村プロ・東映

監督・脚本：今村昌平／原作：深沢七郎／出演：緒形拳、坂本スミ子、信賞美津子、あき竹城、清川虹子、左とん平

姥捨て山伝説を描いた原作に、同じ作者の「東北の神武たち」を加えて脚色した今村昌平が瞠目のリアリズム演出を見せ、最初のパルムドールを獲得した作品。

アンダーグラウンド

〔 1995年受賞 〕

1995年/仏、独、ハンガリー、ユーゴスラビア、ブルガリア/カラー/ビスタ/2h51/DCP



©CIBY 2000 PANDORA FILMMOVIE FILM

監督：エミール・クストリツァ／脚本：デュシャン・コヴァチェヴィッチ、エミール・クストリツァ

第2次世界大戦から、90年代ユーゴ紛争にいたる時代を生き抜いた地下世界の住民たちをマジカルに描く。奇才クストリツァ2度目のパルムドール受賞作。



ゲスト：天願大介 日本映画大学学長／映画監督・脚本家・舞台演出家

出版社に勤務中の1990年、『妹と油揚』で注目され、1991年『アジアンビート（日本編）アイラブ・ニッポン』で長編監督デビュー。以後、『無敵のハンディキャップ』（1993）、『AIKI』（2002）、『暗いところで待ち合わせ』（2006）、『世界で一番美しい夜』（2008）、『デンデラ』（2011）、『魔王』（2014）を監督。最新作は『赤の女王』（2014）。脚本・脚色を手掛けた作品は、父・今村昌平監督の『うなぎ』（1997/パルムドール受賞）、『カンゾー先生』（1998）など多数。三池崇史監督『十三人の刺客』（2010）の脚本で第13回菊島隆三賞受賞。第21回、22回、34回日本アカデミー賞優秀脚本賞受賞。劇作家、舞台演出家としても活躍中で近年では『二輪草〜孤島の鬼より〜』（2017）、『天願版カリガリ博士』（2017）の作・演出を手がけた。2017年4月、日本映画大学学長に就任。



ゲスト：関川夏央 日本映画大学特任教授／作家

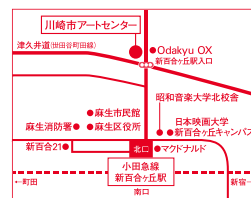
ノンフィクション作家、小説家。上智大学外国語学部中退。日本近代文学への深い関心のもとに、ルポルタージュ、エッセイ、小説、マンガなどの領域を横断した文筆活動を展開。主な作品に、日韓の文化摩擦を描いた『海峡を越えたホームラン』（1988、講談社ノンフィクション賞）、戦後日本、映画を分析した『昭和が明るかった頃』（2001、講談社エッセイ賞）、日本近代を描く『二葉亭四迷の明治四十一年』（1996、司馬遼太郎賞）など。映画や鉄道などエッセイのテーマも多彩。マンガにも関心が高く、谷口ジローのマンガ『「坊っちゃん」の時代』の企画・脚本を担当、手塚治虫文化賞マンガ大賞を得た。2016年には『人間晩年図巻 1990-94年』『人間晩年図巻 1995-99年』（岩波書店）を続けて出版した。

4/20[土]	15:10 ビリディアナ	4/24[水]	15:10 アンダーグラウンド
	17:15 アンダーグラウンド		18:35 男と女
4/21[日]	15:10 木靴の樹	4/25[木]	15:10 木靴の樹
4/22[月]	休館日		18:50 ビリディアナ
4/23[火]	15:10 男と女	4/26[金]	15:10 恐怖の報酬
	17:25 恐怖の報酬		18:10 楢山節考

各回入替制1000円均一

〔会場〕 川崎市アートセンター

小田急線「新百合ヶ丘駅」北口より徒歩3分
〒215-0004 神奈川県川崎市麻生区万福寺6-7-1 TEL:044-955-0107
川崎市アートセンター アルテリオ映像館 <http://kac-cinema.jp>
日本映画大学 www.eiga.ac.jp



【お知らせ】引き続き4/27(土)～5/3(祝)に1963年のパルムドール受賞作『山猫 4K修復版』をロードショー公開します。

アルテリオシネマ会員800円・会員ポイント対象外
日本映画大学生は学生証提示で800円